

教育改善

児童生徒との関わり時間は 事務業務や研修会等負担



あさの しゅうち
浅野 修一 議員

問 児童生徒とその指導者との関わり時間について、現状をどのように捉えているのか。

答 岡本教育次長

保育の時間中は必ず保

育士がおり、入所児童と保育士は関わっている。

小、中学校においても授業時間等の子どもと関わる時間は、一定確保されているが、業務量という面においては、事務業務や研修会等が増えており、負担となつていている現状があることを把握している。

問 国は、人間力の向上を図る教育内容の改善を以前から言っている。

このことへの、町長の考えはどのようなものか。

答 大西町長

人間性、これもすごく大事なことであって、教育の本旨であろうかと思つている。

現状での町内の児童生徒の学力は順調に伸びており、しっかりと堅持しなければならぬ。

また、教育は大きな柱の一つであり、人間性の育成、人間力の向上にもしっかりと注力しながら

児童、生徒を育んでいきたい。

問 教育現場における公平性の観点からも、小学校中学校の校務員を、正規雇用にできないか。

答 岡本教育次長

現在の学校校務員の運用状況は、佐賀小学校1名、大方中学校1名の計2名が正職員となっており、その他の7校については、会計年度任用職員を任用している。

公平性については、勤務時間の多少の差異があるが一定、公平性の確保はできていると認識している。

ドローン活用 今後の運用方法 と対策は 搜索等の要請あれば実施

問 4月に町内で水難事故が発生した。

高知県の防災ヘリによ

る空からの搜索で遭難者が発見されたが、当日は町のドローンによる搜索をしたのか。また、このことを受け、今後の運用方法をどのように考え、対策をするのか。

答 村越情報防災課長

水難や遭難、行方不明

者搜索は、黒潮消防署の指揮の下、対応することとなる。

町所有のドローンの使用は、黒潮消防署等の現地指揮本部の判断により要請があった場合に使用することとなり、搜索等の要請があればドローンによる搜索を実施する。



ヘリポートに降り立つドローンと操縦機(黒潮町には5機、配備)